

食事パターンと糖尿病に関するエビデンステーブル(研究結果の一覧)

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザイン	調査項目		結果			
					食事調査 方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
1	Mizoue Tetsuya, et al (2006)	福岡 県、熊 本県	自衛隊健康研究参加者 (47-59歳 (平均52.4 歳)、男 性、2,106 人	横断 研究	食物摂取頻度 調査 (FFQ)	自衛隊健康研究参加の男性2,106 人を対象に、39食品・飲料に基づ き抽出された食事パターン DFSA食事パターンは、発酵乳製 品、牛乳、菓子、パン、果物、野菜 の高摂取と焼酎の低摂取に特徴づ けられる。(説明率: 8.5%)	耐糖能異常 (impaired fasting glucose, impaired glucose tolerance)と2 型糖尿病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、最も得点が低い 群に比べ最も高い群では、糖代謝異 常有病のオッズが49%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.80 (0.62-1.04) 第3四分位 0.71 (0.54-0.92) 第4四分位 0.51 (0.38-0.67) 傾向性P値 <0.0001	病院 年齢 職位 両親の糖尿病 歴 BMI 喫煙状況 余暇の身体活 動量	食事パター ン 糖代謝異常 Impaired fasting glucose Impaired glucose tolerance 糖尿病 成年男女
						動物性食品パターンは、動物性食 品(赤肉、鶏肉、魚以外の魚介類、 加工肉、魚加工品)と揚げ物、焼き 物の高摂取に特徴づけられる。(説 明率: 7.9%)		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による糖代 謝異常有病率に差は見られなかつ た。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.15 (0.88-1.51) 第3四分位 0.89 (0.67-1.16) 第4四分位 0.97 (0.74-1.27) 傾向性P値=0.43		
						伝統食パターンは、日本で伝統的 に摂取される食品(大豆製品、海 藻類、漬物、緑茶)の高摂取に特 徴づけられる。(説明率: 7.7%)		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による糖代 謝異常有病率に差は見られなかつ た。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.14 (0.86-1.50) 第3四分位 1.40 (1.06-1.83) 第4四分位 1.20 (0.91-1.58) 傾向性P値=0.14		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法	調査項目		結果		
				研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整 キーワード
							Impaired fasting glucose	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、耐糖能異常(IFG)有病のオッズが46%低かった。 オッズ比(95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.00 (0.63-1.59) 第3四分位 0.94 (0.59-1.50) 第4四分位 0.54 (0.32-0.91) 傾向性P値=0.02 動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による耐糖能異常(IFG)有病率に差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.98 (0.61-1.58) 第3四分位 0.85 (0.52-1.37) 第4四分位 0.99 (0.62-1.59) 傾向性P値=0.87 日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による耐糖能異常(IFG)有病率に差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.98 (0.59-1.60) 第3四分位 1.28 (0.79-2.06) 第4四分位 0.90 (0.54-1.49) 傾向性P値=0.85	

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査)	結果	共変量の調整	キーワード
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目		利点、重要性に関する 調査結果(関連)		
							Impaired glucose tolerance	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、耐糖能異常(IGT)有病のオッズが50%低かった。 オッズ比(95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.70 (0.51-0.96) 第3四分位 0.62 (0.45-0.85) 第4四分位 0.50 (0.36-0.70) 傾向性P値 <0.0001 動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による耐糖能異常(IGT)有病率に差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.18 (0.86-1.63) 第3四分位 0.77 (0.55-1.08) 第4四分位 1.02 (0.74-1.41) 傾向性P値=0.59 日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、耐糖能異常(IGT)有病のオッズが1.4倍高かった。 オッズ比(95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.25 (0.89-1.75) 第3四分位 1.50 (1.07-2.10) 第4四分位 1.39 (0.99-1.94)		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査 2型糖尿病	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、2型糖尿病有病のオッズが50%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.92 (0.54-1.55) 第3四分位 0.71 (0.41-1.22) 第4四分位 0.50 (0.28-0.91) 傾向性P値=0.01		
								動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による2型糖尿病有病率に差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.54 (0.87-2.70) 第3四分位 1.58 (0.91-2.75) 第4四分位 0.73 (0.38-1.40) 傾向性P値=0.33		
								日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による2型糖尿病有病率に差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.03 (0.59-1.80) 第3四分位 1.27 (0.73-2.20) 第4四分位 0.96 (0.54-1.69) 傾向性P値=1.00		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザイン	調査項目		アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査)	結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目		利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
2	Nanri Akiko, et al (2008)	福岡県 福岡市 東区	九州大学 福岡コホ ート研究の ベースライ ン調査参 加者 50-74歳、 7,910人(男 性3,243 人、女性 4,667人)	横断 研究	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	九州大学福岡コホート研究のベースライン調査参加者男性3,243人、女性4,667人を対象に、49食品・飲料に基づき抽出された食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、大豆製品、魚、ヨーグルトの高摂取に特徴づけられる。(説明率: 16.8%) 高脂肪食パターンは、揚げ物、肉、加工肉、マヨネーズ、卵の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 5.5%)	ヘモグロビン A1c高値(≥ 5.5%)	健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による高ヘモグロビンA1c割合に差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間): 男性 第1五分位 1.00(基準) 第2五分位 0.86(0.62-1.21) 第3五分位 0.75(0.53-1.06) 第4五分位 1.11(0.80-1.54) 第5五分位 0.84(0.59-1.20) 傾向性P値=0.89 女性 第1五分位 1.00(基準) 第2五分位 1.37(1.00-1.89) 第3五分位 1.10(0.80-1.53) 第4五分位 1.21(0.87-1.67) 第5五分位 1.38(1.00-1.91) 傾向性P値=0.18 高脂肪食パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による高ヘモグロビンA1c割合に差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間): 男性 第1五分位 1.00(基準) 第2五分位 0.86(0.62-1.18) 第3五分位 1.08(0.80-1.48) 第4五分位 0.76(0.55-1.06) 第5五分位 0.74(0.53-1.04) 傾向性P値=0.07 女性 第1五分位 1.00(基準) 第2五分位 0.96(0.71-1.30) 第3五分位 1.18(0.88-1.58) 第4五分位 1.02(0.75-1.37) 第5五分位 0.95(0.70-1.30) 傾向性P値=0.93	年齢 BMI 喫煙状況 飲酒状況 身体活動量 両親の糖尿病 歴	食事パター ン 高血糖 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	食事調 査方法	調査項目		結果		
						テーマに関連する 調査項目	アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						魚介類食事パターンは、多様な魚 介類(貝類、塩蔵魚の内臓、ハラ コ、練り製品)の高摂取に特徴づけ られる。(説明率: 4.8%)		魚介類食事パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、女性では、得点 による高ヘモグロビンA1c割合に差は 見られなかったものの、男性では、最 も得点が低い群に比べ最も高い群で は、高ヘモグロビンA1c割合が1.3倍高 かった。 オッズ比 (95%信頼区間): 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.13 (0.80-1.61) 第3五分位 1.31 (0.92-1.84) 第4五分位 1.77 (1.26-2.47) 第5五分位 1.34 (0.95-1.89) 傾向性P値=0.01 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.18 (0.87-1.59) 第3五分位 1.13 (0.84-1.54) 第4五分位 1.18 (0.87-1.59) 第5五分位 0.86 (0.63-1.18) 傾向性P値=0.40		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	食事調 査方法	調査項目		結果		
						テーマに関連する 調査項目	アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						洋風朝食パターンは、パン、マーガリン、コーヒーの高摂取と米飯、みそ汁の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 3.4%)		洋風朝食パターン 得点の五分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、高ヘモグロビンA1c割合が男性では40%、女性では36%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間): 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.70 (0.51-0.97) 第3五分位 0.80 (0.58-1.09) 第4五分位 0.80 (0.59-1.10) 第5五分位 0.60 (0.43-0.84) 傾向性P値=0.02 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.13 (0.84-1.50) 第3五分位 1.24 (0.93-1.65) 第4五分位 1.03 (0.77-1.38) 第5五分位 0.64 (0.46-0.90) 傾向性P値=0.02		
3	Morimoto Akiko, et al (2012)	長野県	コホート研究参加者 40-69歳、5,665人 (男性1,995人、女性3,670人)	前向き研究 追跡期間 平均 10.3年	食物摂取頻度調査 (FFQ)	コホート研究参加者男性1,995人、女性3,670人を対象に、16食品・飲料に基づき抽出された食事パターン 健康食パターンは、野菜、いも類、海藻類、果物、大豆製品の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 16.2%)	糖尿病発症 (以下の1つ以上の項目に該当の場合を糖尿病と定義: 空腹時血糖値 126mg/dl以上; 非空腹時血糖値 200mg/dl以上; HbA1c値 6.5%以上; 糖尿病治療中)	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群では、糖尿病発症リスクが22%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.90 (0.72-1.21) 第3四分位 0.83 (0.64-1.08) 第4四分位 0.78 (0.61-0.95) 傾向性P値 = 0.008	年齢 性別 血糖値 空腹状態 BMI 収縮期血圧 総コレステロール 中性脂肪 糖尿病家族歴 運動習慣 喫煙状況	食事パターン 糖尿病発症 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査方法	調査項目		結果			
				研究 デザイン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
4	Nanri Akiko, et al (2013)	全国11 保健所 管内	JPHC研究 参加者 45-74歳、 64,705人 (男性 27,816人、 女性36,889 人)	前向 き研 究 追跡 期間 5年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JPHC研究参加者の男性27,816 人、女性36,889人を対象に、48食 品群に基づき、男女別に抽出され た食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、い も類、大豆製品、海藻類、きのこ 類、魚、緑茶の高摂取に特徴づけ られる。 欧米食パターンは、肉、加工肉、パ ン、ドレッシング、乳製品、魚、コー ヒー、紅茶、ソースの高摂取に特徴 づけられる。	2型糖尿病発 症 (自己申告)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による糖尿 病発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.14 (0.92-1.41) 第3四分位 0.93 (0.75-1.17) 第4四分位 0.93 (0.74-1.16) 傾向性P値 = 0.25 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.94 (0.74-1.21) 第3四分位 0.96 (0.74-1.23) 第4四分位 0.90 (0.69-1.16) 傾向性P値 = 0.45 欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッ ズ比を算出した結果、得点による糖尿 病発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.05 (0.84-1.31) 第3四分位 1.26 (1.01-1.57) 第4四分位 1.15 (0.90-1.46) 傾向性P値 = 0.12 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.93 (0.72-1.18) 第3四分位 0.99 (0.77-1.28) 第4四分位 0.81 (0.61-1.08) 傾向性P値 = 0.26	年齢 地域 喫煙状況 糖尿病家族歴 総身体活動量 高血圧既往歴 総エネルギー摂 取量 BMI	食事パター ン 2型糖尿病 発症 成年男女

					調査方法	調査項目		結果		
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						伝統食パターンは、魚、漬物、魚以外の魚介類、みそ汁、米飯の高摂取に特徴づけられる。		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による糖尿病発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.96 (0.75-1.23) 第3四分位 0.97 (0.75-1.27) 第4四分位 0.97 (0.74-1.27) 傾向性P値 = 0.88 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.92 (0.71-1.19) 第3四分位 0.89 (0.68-1.16) 第4四分位 0.87 (0.66-1.15) 傾向性P値 = 0.32		

					調査項目		結果			
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザイン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指 標 (利点、重要性 に関する調査)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
5	Arisawa Kokichi, et al (2014)	徳島県	徳島県に おけるJ- MICCスタ ディ参加者 35-70歳、 513人(男 性377人、 女性136 人)	横断 研究	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	J-MICCスタディ参加者513人を対 象に、46食品に基づき抽出された 食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、き のこ類の高摂取に特徴づけられ る。(説明率: 17%) 高脂肪/欧米食パターンは肉、肉 製品、マヨネーズ、揚げ物、洋菓子 の高摂取に特徴づけられる。(説明 率: 7%) パン・乳製品パターンは、パン、 マーガリン、牛乳、ヨーグルトの高 摂取に特徴づけられる。(説明率: 5%) 魚介類パターンは、いか、えび、か に、たこ、貝類、魚卵の高摂取に特 徴づけられる。(説明率: 4%)	空腹時血糖値 (NCEP ATP Ⅲ 基準: 100mg/dl以 上) 空腹時血糖値 (JASSO 基 準: 110mg/dl 以上)	健康食パターン 得点による空腹時高血糖割合に差は 見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとの オッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP Ⅲ 基準 0.84 (0.66-1.05) P=0.13 JASSO 基準 0.89 (0.61-1.24) P=0.51 高脂肪/欧米食パターン 得点による空腹時高血糖割合に差は 見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとの オッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP Ⅲ 基準 0.84 (0.67-1.06) P=0.15 JASSO 基準 0.85 (0.60-1.19) P=0.35 パン・乳製品パターン 得点が1SD増加するごとに、NCEP ATPⅢの定義による空腹時高血糖割 合は20%低下した。 主成分得点が1SD増加するごとの オッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP Ⅲ 基準 0.80 (0.65-1.00) P=0.04 JASSO 基準 0.77 (0.55-1.05) P=0.10 魚介類パターン 得点による空腹時高血糖割合に差は 見られなかった。 主成分得点が1SD増加するごとの オッズ比(95%信頼区間) NCEP ATP Ⅲ 基準 1.02 (0.83-1.25) P=0.87 JASSO 基準 1.19 (0.91-1.54) P=0.20	年齢 性別 総エネルギー摂 取量 身体活動量 喫煙状況 飲酒状況	食事パター ン 空腹時血糖 高値 成年男女